

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800030		
法人名	有限会社 竹松		
事業所名	グループホーム 楽園		
所在地	〒811-0323 福岡県福岡市東区志賀島1735番地の153 092-603-1233		
自己評価作成日	平成25年08月20日	評価結果確定日	平成25年09月23日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 093-582-0294		
訪問調査日	平成25年09月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然に囲まれた私たちグループホーム「楽園」は、季節の変化を肌で感じられる穏やかな施設です。地域との交流も深く、活気あふれた地域行事へのお誘いや、2ヶ月1回の運営推進会議、防災訓練等も積極的に参加して頂いています。又近年では、週3～4日ボランティア来訪もあり元気の会話でにぎやかです。地域の方や、御家族様、ボランティアの方々の絶大なる協力にて「その人らしさ」を損なわない「介護は心」のケアの実践を全職員で行っています。施設の敷地内には畑もあり、季節折々の無農薬野菜を作り、皆さんで収穫の楽しみ毎日新鮮な素材を生かした食事を提供し入居者の方々にはとても好評頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

歴史とロマンが漂う志賀島の、風光明媚な海岸の近くに、デイサービスと、宅老所併設のグループホーム「楽園」がある。認知症高齢者が住み慣れた馴染みの街で、いつまでも暮らし続ける支援をしていきたいという、代表の思いを実現するために7年前に開設し、職員と力を合わせて、利用者にとって、最後の「楽園」になるように、大変な努力が続いている。利用者職員は、敷地の畑で採れた、無農薬の新鮮な野菜を使い料理し、沢山食べて健康増進に繋げ、医師の定期的な往診と職員の細やかな見守りと合わせ、健康管理は充実し、家族からは「ここを選んで良かった」という、深い信頼に包まれている。また、利用者がいつまでも暮らし続けるために、心身機能の維持を目指し、自立支援に向けた取り組みが、少しずつ成果として現れているグループホーム「楽園」である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月、ミーティングの前には理念の唱和を行っている。馴染み人と住み慣れた所で穏やかに生活できる様入居者の気持ちに寄り添って優しい介護が出来る様職員全員共有している。地域の交流も年を追うごとに段々深まっている。	ホーム独自の理念と基本方針を掲げ、毎月行われる職員会議で唱和し、職員全員が、理念の意義を理解し、利用者に寄り添い、一人ひとりに合わせた介護サービスの提供を目指している。また、職員は、悩んだり、迷ったりした時には、理念を振り返り、初心に帰り、自分を取り戻して、介護サービスの実践に取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事や近隣の保育園、小学校の行事に参加させて頂き、日頃も地域の方と顔なじみになり交流を築き、生き生きと過ごしています。町内会にも入り草取り、集会にも参加している。	町内会に加入し、利用者と職員は、地域の清掃活動や、行事に積極的に参加し、保育園や小学校の行事にも参加し、顔見知りになった近隣住民と、散歩の途中で親しく挨拶や会話をする等、地域の一員としての交流の輪が、広がっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隔月1回実施している地域運営推進会議にて日常生活状況等お伝えし、それに応じ認知症の理解を深めて頂く様努めている。又、包括支援センターの方らの情報提供して頂いている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月1回運営推進会議を開催している。毎回入居者、御家族含め10名前後の方々に参加して頂き、地域の方、ご家族の方等意見交換を行い意見を全職員把握しサービス向上に努めている。	2ヶ月毎に定期的開催し、家族の参加が多く、ホームの現況や取り組み、予定や課題等を報告し、参加者からは、意見や要望、情報提供や質問等が出され、有意義な会議である。毎回、家族の参加が多いので、家族同士の会話も弾み、出された意見は、ホーム運営に反映できるように努力している。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所職員(案内、報告)運営推進会議等、包括支援センターの方より参加して頂き又、必要に応じ施設長、施設ケアマネ職員を通じ連絡、相談を行っている。	行政担当窓口に向向き、ホームの空き状況や困難事例、疑問点等相談し、連携を図っている。運営推進会議に、地域包括支援センター職員が出席し、ホームの運営状況や取り組みに理解を得て、アドバイスをもらい、協力関係を構築している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修の報告等で全職員共有している 心理的拘束、言葉による拘束、行動制限などミーティングで話し合い知識向上に努める。日中施設せず個人の状態を把握し、見守り等状況に応じたケアを行っている。	身体拘束廃止マニュアルを整備し、外部研修に参加した職員が勉強会で報告し、職員全員が、言葉を含めた身体拘束が、利用者にも与える影響を理解し、職員間で注意し合い、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修等で情報収集し、ミーティング等の報告にて知識向上に努めている。今まで該当例はなく防止できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に積極的に参加し、その参加した職員が内部研修を行い、全職員周知し活用している。運営推進会議の中でもいきいきセンターの職員より情報を頂いている。	過去に成年後見制度の該当者がいたので、職員は制度について理解している。制度の研修を受講し、職員全員に周知し、利用者や家族が、制度を必要とする時は、内容を説明し、申請手続きの方法や、申請機関を紹介出来る体制が整っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項、契約書等の説明を行い、その場で質問を受け納得して頂いて署名、押印してもらう。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に関しては毎回の生活の中で要望を聞いて不満がないようにしている。家族に関しては時折状態報告を兼ね電話連絡し、要望等をお聞きする。玄関には意見箱を設置し、忌憚の無い意見をいただく様にしている。	玄関に意見箱や苦情相談窓口を設置し、意見や要望を聴き取っている。運営推進会議に、多くの家族が参加し、利用者の状態や暮らしぶりを報告し、意見や要望を出してもらい、ホーム運営に反映させている。また、遠方の家族には、ホーム便りを送付し、電話で定期的に話し合い、意見を聞いている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、個人面談、相談、雑談の中で意見を聞いて反映させている。	毎月職員会議を開催し、職員の意見や要望、提案等を聴き取り、意見が言いやすい環境を整えている。毎日の申し送り時に、職員の気付きを報告し、その都度、話し合い軌道修正している。また、代表や管理者は、職員と個別に面談し、悩みや心配事を聴きながら、働きやすい職場環境に取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の仕事に対する姿勢や自己研鑽への努力等を評価し給料、賞与に反映している。休み希望、急な休みにも限りなく答え、お互い様の気持ちで協力している。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	男女差別なく定年を70歳までとする。介護の資質が高い方には70歳以上も働いて貰っている。又、職員は發揮出来る様勤務を配慮している。その能力に応じた力を發揮出来る様勤務を配慮している。	職員の募集は、人柄や介護に対する思いを優先し、年齢、性別、資格等の制限はしていない。採用後は、新人研修やスキルアップ研修を実施し、資格取得のためのバックアップ体制も整えている。また、職員の能力を活かした勤務体制や、定年を70歳に延長し、生き生きと働きやすい就労環境である。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員に人権を守る研修等に参加してもらい、常に人格を尊重し尊厳を守る言動、行動をとって貰うよう日頃から注意を促している。出来ていない場合はその時注意する。	人権研修会に参加した職員が、勉強会で利用者の尊厳を守る介護について報告し、職員全員が理解し、利用者が安心して、穏やかに暮らせるための、介護の在り方を話し合い、言葉かけや、目線、タイミング等、注意しながら介護の実践に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人面談を定期的に行い、職員の想い・要望など聞き、その人の力量を鑑み、その人に合った研修を選び参加してもらう事でその人のモチベーションを上げるようにしている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、毎月研修・勉強会があり、その時に合わせて訪問の機会を作っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に利用者の想い、要望を把握してミーティングなど職員が集まる場でその人に合ったケアを話し合い介護支援に当たっています。又はご家族にも想い、要望等を確認してケアプランに生かしています。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者と同じく御家族の想い、要望等には話し合いの場を設け又は、電話連絡にて気軽に話せるよう心がけています。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療機関・ケアマネとの関係を密に取り入れて、その人に合ったサービスを御家族と連携して対応しています。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を生かし食事・入浴など一方的な援助ではなく、なんでも一緒にしています。又は趣味がある方には職員が反対にお手伝いして貰っています。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診、施設行事の呼びかけ等で利用者とのふれあいの場を提供と共に介助をして貰っています。その際は職員は近くで見守り支援に徹しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人、親戚の面会や電話など気軽に関係が継続できるよう支援しています。	友人、知人、親戚の面会があり、落ち着いて話ができる配慮や、お茶やお菓子を提供し、又、訪ねてもらえるように支援している。職員は、利用者の行きたい所や買い物、外食、美容院等、家族に相談し、協力を得て同行し、利用者の馴染みの人や場所との関係が、継続できるように支援している。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル席の配置を利用者同士が関わり合えるよう、それぞれの個性の把握に努め、相性等を考慮し、孤立しないよう配慮し、トラブルや訴えがあれば早期に再検討し支援しています。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談に応じるようにしており、出来る限りの支援をするよう努めています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの気持ちを大切に、日々の関わりや会話、何気ない言葉、表情などから希望や意向の把握に努めています。また、ご家族からの情報を得るようにしています。	アセスメントを活用し、利用者の昔のことを思い出してもらい、話が弾み楽しい会話になることもある。職員は、利用者寄り添い、会話の中から、利用者の思いや意向を感じ取り、職員全員で話し合い、利用者の思いが少しでも実現できるように、家族の協力を得て、利用者の生きがいに繋げている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時より、ご家族から情報を得、本人との会話からや必要時にはその都度ご家族へ連絡を取り、把握に努めています。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、言動や表情等、状態の変化に注意しながら把握するよう努めています。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を中心に、全職員にて話し合いの場を設け意見を出し合い、その人が安心してその人らしく生活出来る様な介護計画を作成しています。	職員は、利用者と家族と話し合い、意見や要望を聴き取りカンファレンスで、関係者で検討し、介護計画を3ヶ月毎に作成し、設定期間毎に見直し、利用者本位の介護を実践している。また、利用者の状態変化に合わせ、家族と主治医、関係者が話し合い、介護計画の見直しをその都度行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、個別記録は行い職員間で情報交換している。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のニーズに合わせてご本人様が安心して生活出来るよう取り組んでいます。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様一人一人が楽しく安全に暮らしていけるように地域行事へ参加している。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	皆さんがかかりつけ医を持っておられるが、専門の医療機関の相談や希望等ある時は相談出来る様にしている。受診時は御家族と職員が同伴し、状況報告を提供するので安心して受診出来る様支援しています。	利用者や家族の希望を優先し、かかりつけ医の受診支援をしている。提携医による定期的な往診と、訪問歯科を活用し、訪問看護師と24時間連携を取りながら、利用者の健康管理に対応している。また、かかりつけ医への受診は、家族と職員が同伴し、医療情報を共有できる体制を整えている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連絡ノートを作成し、個々の身体状況等に異常があった際は指示を受けている(家族への連絡、受診など)		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換を実施し、入院時は職員付き添い行い利用者様が安心して頂ける様支援しています。入院中も経過を把握し情報交換を行っている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の研修等に参加するが、施設ではまだ具体的にやってないが契約時、重度化した場合の方針を説明し同意書の署名、押印を貰っているので御本人、家族の希望に応じ家族、医療との連携を密にして出来る限りホームでの対応をしていく方針です。	ターミナルケアについて、契約時に利用者や家族に、ホームで出来る介護について説明し、了解を得ている。利用者の重度化が進む中で、家族や主治医と連絡を密に取り、今後の方針を確認し、関係者で共有し、利用者が出来るだけ、ホームで暮らし続けることが出来るように、重度化に向けた支援体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急等の外部研修に参加にてミーティング時報告し、知識向上及び情報共有に努めている。初期対応の訓練等は看護師から指導を受け、毎月ミーティング時に再確認する。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力で夜間想定も含め、消防訓練を定期的に行っている。地域の方の参加もしている。地震や水害等の訓練については地域の方々の協力もいるので日程等調整中です。非常時の用品も準備している。	消防署の協力と指導を得て定期的に、防災訓練を実施し、夜間想定では、2階で寝ている利用者を、夜勤者がどのように、迅速に救助できるかを常に考え、安全に避難場所に救助出来る体制を築く努力をしている。また、電気、水道、ガスが使用不可を想定した、非常食、飲料水、非常用備品の備蓄も整っている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「人格を尊重した言動、行動をする」をモットーに一人一人の個性を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応を行っている。	利用者の尊厳と権利を守るために、職員は、常に言動や行動、目線等に気を付け、利用者を経験豊かな人生の先輩として尊敬し、優しい声掛けやプライド、羞恥心に配慮した介護サービスの実践に取り組んでいる。また、利用者の個人記録の保管や、職員の守秘義務については、代表が常に説明し徹底が図られている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を生かし、健康面や精神面で配慮を行い自己決定して頂いている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思、ペースに合った支援を出来るだけ希望に沿うように対応している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はその人に合った物を選び着て頂いている。化粧や顔のマッサージなどボランティアに来てもらい楽しみながらしてもらっている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	つわの皮むき、豆むき食べたい物があれば対応している。茶碗拭きなど体調面を考慮して手伝って貰っている。時々味見をして貰い、アドバイスを生かした食事作りをしている。時には皆さんで外食も楽しんでいる。	利用者の、残存能力に合わせて、つわの皮むきや、豆むき、味見、配膳、茶碗拭き等、役割分担をしながら手伝ってもらい、利用者と職員が海の見えるテーブルで、一緒に食事する様子は、楽しそうに微笑ましいものがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取状況や摂取量を把握し分量等を調整している。水分の必要だと思われる方は補給に努め、又は記録してチェックしている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを実行し、本人の能力に合わせて、見守り支援を行っている。歯科医院による定期的なケアを行っている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	常日頃排泄パターンをチェックし前もって排泄誘導しています。排泄がない時間が続いたら、水分補給の回数を増やしスムーズな排泄が出来る様に援助します。布パンツに戻れる時、日々試行錯誤しレベルアップを図っている。	トイレでの排泄を基本とし、職員は、利用者の排泄パターンや習慣を把握し、早めの声掛けや誘導で、失敗の少ないトイレでの排泄支援に取り組んでいる。また、利用者の頑張りで、オムツから布パンツに変更し、利用者の自信回復に繋がる排泄の支援に取り組んでいる。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつなど工夫し、個々の排泄、水分摂取にも心がけ予防解消に努めている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の要望で入浴して貰っている。洗えない部分は職員が介助し、気持ちよさを味わってもらう。入浴剤使用も喜ばれる。	利用者の生活習慣に合わせた入浴を支援し、香りの良い入浴剤を使用し、楽しい時間を過ごしてもらっている。入浴を拒否する利用者には、職員が交代で声掛けし、タイミングを見はからいながら、入浴して貰えるように努力している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調の変化に合わせて自室での休息や夜間身体も休め安眠して頂ける様に支援しています。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬と薬手帳はホームが管理、用法・用量・注意事項は個人ファイルに閉じています。変更があった場合は職員が共有出来る様連絡をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯手伝い、や食事手伝い、合唱、映画鑑賞など又、散歩やドライブ、外食等で気分転換を図る支援を行う。		
51	2 1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの公園に散歩、ドライブ、外食、地域の祭りなどその人に合った支援を行う。御家族との外出を兼ね、月1~2回の受診は家族対応で行う。盆の帰省や墓参り等も家族に協力してもらう。	利用者の気分転換と、生きがいに繋がる外出は、天気の良い日は、公園の散歩、外食、地域行事、志賀島一周のドライブ等、戸外に出かけることは多い。病院受診は家族が同行し、利用者と帰りに食事したり、買い物をする等、墓参りや外泊等と合わせ、利用者の生きがいに結びつく支援に取り組んでいる。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物、外食時職員見守りにて本人に支払いをして頂いています。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある際は職員が間に入り円滑に話が出来るように支援します。手紙に関しては月に一度、日頃の様子や連絡事項を書いて郵送しています。		
54	2 2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた花や、季節感のあるもの(風鈴やうちわなど)を飾ったり、入居者自身の作品(絵画など)を飾ったりしている。又は入浴時に入浴剤を利用したり春先等穏やかな日は天窓を開放し日光を取り入れたりして過ごしている。	志賀島の風光明媚な場所に、デイサービス併設の建物は、天窓から、秋の風と陽射しが下りてきて、利用者は室内の季節の花や飾り物を見て、四季の移り変わりを居ながらにして感じている。リビングルームは、利用者が、一日の大半を過ごす場所であり、光や温度、音や臭いに配慮して、居心地の良い共用空間となっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サロンにてテーブルに座ったり、ソファに腰かけたりして楽しく談笑したりテレビを見たりして過ごされている。		
56	2 3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の使い慣れた物を置き、自分で描いた絵や写真など飾ったりと思思いの居室になっている。又、御家族の協力で孫、ひ孫の写真等も飾っている。	利用者が使い慣れた馴染みの家具やタンス、仏壇、ベッド、家族の写真等を、家族の協力を得て、持ち込みレイアウトされ、利用者の自宅部屋と、違和感のない居室になっている。また、室内は清掃が行き届き、清潔感のある居室である。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各々やれる事を出来るだけ本人様のペースや状況に応じ手伝って頂いています。無理強いはずせず本人様らしい生活を送れる様支援しています。		